

## 初秋の南大菩薩山塊を歩く 大谷ヶ丸～滝子山

実施日 2017年9月3日(日)

天候 快晴

リーダー 石原 勝正

参加者 石附智恵、遠井謙作、小名秀鋭、瀧澤きよの、宮崎敏男、石原勝正 計6名

費用 JR中央線(高尾駅起算)1,730円

タイム JR甲斐大和駅(8:40)景德院(9:10)大鹿峠(10:28)曲沢峠(11:04)コンドウ丸(11:34)大谷ヶ丸(12:50)滝子山(14:10)檜平(15:00)林道終点(16:30)JR初狩駅(16:55)

今日の山行は駅から駅へのハイキングで公共交通機関の心配はないが、9月に入って日も短くなっている。

一方今日のコースは、歩行時間が8時間強、歩行距離も20キロ超とやや長い。途中のエスケープコースはない。そのため、できる限り標準コースタイムを守って全員無事下山し、18時前にJR初狩駅に到着することを目標とする。幸い、参加者全員健脚揃い、体調も良さそうで、心配された台風15号も週末に日本列島の東を通過し、今日は久しぶりの快晴で天候も万全。

JR甲斐大和駅舎前を右折し国道20号に出てアスファルト車道を東に向かう。



10分ほどで国道20号を左に分ける田野・日川方面へ向かう県道に入る。日川に沿って暫

く歩くとバス停景德院入口と駐車場に到着。



駐車場にある登山ポストに登山届を投函。景德院は武田勝頼親子の自刃の場の古刹

として旧跡。景德院山門前を大鹿峠の標識に沿って右に進み、民家の庭の間の径から登山道に入る。

登山道は大鹿山に続く尾根道を進み、高圧線鉄塔下の広場で初めての給水タイムと小休憩。

登山道は傾斜を増し大鹿峠と大鹿山を左右に分けるピークの分岐点まで登り、右に50%ほど急坂を下降して大鹿峠到達。女性会員Tさんの持参した冷やした西瓜を美味しくいただき感謝。大鹿峠は景德院からJR笹子駅へ



下る峠で、笹子雁ヶ腹摺山やお坊山に続く尾根道にも合流している。

大鹿峠から東の大谷ヶ丸に続く尾根道に戻り、大鹿山を巻いて明るい広葉樹林帯の山道を曲沢峠で小休憩。曲沢峠で右に分けると滝子山方面、我々は大谷ヶ丸を目指すため尾根道を登って次のピーク"コンドウ丸"に向かう。コンドウ丸に到達し、昼食とランチ休憩をとる。

コンドウ丸から開けた防火帯や緑の樹林帯の尾根道をしばらく進み、

緩やかなピークをひとつ超えると大谷ヶ丸山頂直下の急坂を迎える。



180㍽ほどの標高差を一気に登り切ると広い山頂の広場に到達する。

小広場の山頂は樹林に囲まれ展望はないが、西の一角がわずかに伐採されて大菩薩の山塊がみられ。

大谷ヶ丸まではすれ違う登山者がほとんどいないほど静かな山登りを楽しむ。山頂では数組のパーティーに出会う。

山頂を超えて湯ノ沢峠に続く南大菩薩縦走路を右に分かれて、南方面にUターンするように滝子山に向かって緩やかに下る。尾根道は幾つかのピークを通過し大谷ヶ丸と滝子山の鞍部に至る。その後、緩やかに登りの後、白縫神社の祀られた祠と小さな水溜りのような鎮西ヶ池に出る。

鎮西ヶ池から最後の急坂を登り、頂上直下で右に折れて山頂に登る。滝子山山



頂は全方面に展望が開けている。南東方面には大菩薩山塊や電波塔のミツ峠山等が見えるが、富士山や南アルプスの山並みは霞んでいるためはっきり展望できない。

滝子山からの下山は山頂直下の分岐まで戻り、初狩駅方面に向かう尾根

道を下る。

尾根道は男坂と女坂を分ける分岐点から女坂を経由して小さな広い台地の檜平に着く。



急坂の尾根下りが続いたため檜平でひと息入れる。

尾根道は傾斜が一段と急坂になると初狩駅への標識のある分岐点に到達。尾根を左に離れて山腹を回り込む山道を下る。



薄暗い針葉樹林帯の中をジグザグに何度も下ると沢筋に合流し、沢に沿った岩の歩きにくい山道

をひたすら下る。やがて下山道は細い林道のような歩きやすい平坦な径に変わり暗い樹林帯を抜けると登山ポストの設置された明るい林道登山口に出る。

そこからアスファルトの車道を歩いて25分、高速道路の下を通過し国道20号をへてJR初狩駅に到達した。

到着時間は予定より早い16時55分。全員無事下山で目標達成。参加者皆さんの健脚と協力に感謝。

駅付近のコンビニで調達した缶ビールで乾杯。立川方面上り普通電車(17時46分)に乗車して帰路に着いた。

(記&写真・石原 勝正)